癸巳　早春　　上尾路

ふるき郡に日を暮して尾海の
ぎり参けるに朝綿扉の櫻かけこめん
と蝶蜂の言ふ語りまうきてのあれ
重ね子にみる今年は霞の衣を
けふぞ着るに春ゆ恨み有り

朝房房

千金の帽子あり梅案中　夜狂

雲く更の残喘や
ふるの春　尾海

春興

伝へ々て扇を与ふ扇に　狂
咲くや安てそ梨雲天の雨　海

春興

朝倭の月に始めて
二年ぶりの風　杏庵